

第 6 学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 資料から読み取ったことを基にして自分の言葉でまとめることができた。
 - 学習問題について主体的に追究したことを関連図等にまとめ、社会的事象の特色や意味を見出すことができた。
 - 多様な立場から考えを想像して、よりよい社会についての意見をまとめることができた。
- 課題** ▼資料からの情報の読み取りやそれらを関連付けて、まとめることに苦手さを感じる児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 学習問題を見出して、主体的に問いを追究しようとする力。
- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、資料から読み取ったことを関連付けて多角的に思考し、問いに対する考えをまとめる力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 導入の学習材との出合いを工夫し、当事者性をもって、問いを追究できるようにする。
- 学習計画を基に、自分の学びを振り返りながら学習を進めていく。

言語活動の工夫

- 資料の読み取りを基に、見えること（事実）と言えること（原因や理由、解釈や意味付け）をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。

ICT活用の工夫

- ICT を活用して資料を提示し、気付いたことや考えたことを共有する。

課題解決力育成の工夫

- 社会的な見方・考え方を働かせることのできる資料を提示することで、自ら問いを見出せるようにする。

達成目標

- 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割についての確かな理解を獲得する。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 未来に向けての日本、世界における人々と共によりよく社会を構想し、現代社会に見られる課題を解決するために多くの人と協力しながらよりよい社会を作っていこうとする国家及び社会の一員としての生き方を考えることを通して、現実社会とつながり、社会への希望や社会の一員としての自覚を養う。